平塚高村団地及びその周辺地域における

地域医療福祉拠点整備モデル地区構想について

構想の内容

１　平塚高村団地及びその周辺地域の状況（4㌻）

　(1)地勢　　　…旭南地区（出縄、万田、高根、山下、高村）は、高麗山地のふもとにあり、地区の一部は大磯丘陵東部の台地にある。

　(2)人口増減　…20年前（平成10年（1998年））の人口を100とした場合、平塚市全体では102となっているのに対し、旭南地区の人口は90。高村の人口は、52と大きく下回っている。

　(3)少子高齢化…旭南地区の年少人口（0歳～14歳）比率は市全体の比率を下回り、高齢化率は市全体の比率を上回っていて、少子高齢化が進んでいる。高村地区は高齢化率が55.2％、年少人口比率が3.3％となっていて、その傾向が顕著である。

　(4)各種施設　…小・中学校に加え、公民館や図書館など多様な公共施設が設置されている。また、５つの医療機関と多数の福祉関連施設がある。

八幡神社土屋線沿道を中心にサンロードあさひ商店会があり、他にもスーパーマーケットや薬局、コンビニエンスストアなどが点在している。

　(5)交通機関　…移動手段としてバスを利用する市民が他地区に比べて多い。旭南地区を走るバスは７路線あり、平塚高村団地と伊勢原駅南口を往復するバスがあることは大きな特徴である。

２　平塚高村団地及びその周辺地域の課題の整理（10㌻）

(1)　市全体と比べ人口減少と少子高齢化が進んでおり、在宅医療・介護の連携を進め高齢者施策の推進を図るとともに、若年層を中心とした転入促進が急務である。

(2)　公共施設について、一部で施設の長寿命化が求められる。コンパクトシティの考え方もあり、施設の集約も視野に入れる必要がある。

(3)　子育て世代が集える場が必要である。

(4)　小児科が地域の中になく若年層の転入促進の観点から誘致が必要である。

(5)　様々な機能を持った社会福祉法人が地域内に存在し、法人と協力したまちづくりが可能である。また、障がい者施設などが多く配慮も求められる。

(6)　平塚駅以外から伊勢原駅南口に行く始発バスが運行しているなどバス路線は充実している。バス停までのアクセスの確保が課題であり、大磯丘陵東部の周辺住民への対応が必要である。

３　地域医療福祉拠点整備モデル地区構想（13㌻）

　(1)　構想策定にあたっての視点

ア　地域共生社会の実現を視野に入れたまちづくり（13㌻）

　　地域共生社会を実現するためには、地域の生活課題を抱えた人の困りごとに気付き、適切な支援につなぎ、一人ひとりの権利が守られ、人材や組織を育て、住民が支え合う地域を創造することが不可欠である。地域での交流と活性化を通じて、生活課題の解決などの取組によってできた世代間の関係性を緩やかに発展させることなどにより、

少子高齢社会に対応できる地域共生力の高いまちづくりを目指す。

　　イ ケア・コンパクトシティの視点からのまちづくり（14㌻）

地域包括ケアシステムとコンパクトシティを融合させた「ケア・コンパクトシティ」のまちづくりを進め、小児から老年期までのプライマリーケアを一体的に提供できる医療機関や地域の生活支援などを行う福祉施設の誘致を促し、誰もが身近な地域で、医療や福祉サービスを活用しながら安心して暮らせるような取組を進める。

(2)　目指すべきまちの姿と方向性（15㌻）

　　「子育て世帯、高齢者世帯など多様な世代がいきいきと暮らし続けられるまち」

* 地域医療福祉拠点整備モデル地区のまちづくりに向けて（17㌻）

　　　　住民相互の意見の交換などを通じて、住民自らがあるべきまちの姿を描きながら、平塚市、ＵＲ都市機構や参入事業者などとも役割分担を定め、すべての関係者が連携・協力してハード・ソフト両面にわたる新しいコミュニティづくりを行うことが重要である。こうした取組は平塚市自治基本条例の考え方を実践するものであり、この事業が地域医療福祉拠点整備のモデルとしてだけではなく、市民主体の新たなまちづくりの進め方のモデルとなることを目指す。

(3)　想定事業（18㌻）

　＜方向性１　誰もが集える 「ふれあい」と「にぎわい」の創出＞

〇地域・交流スペースの設置・運営

〇地域内移動手段の確保

＜方向性２　高齢者も障がい者も安心して暮らせる地域づくり＞

〇福祉総合相談システムの試行

〇介護保険地域密着型サービスの誘致

〇在宅医療・介護連携の推進

＜方向性３　若者・子育て世代にうれしいまち、高村・旭南＞

　　　　〇小児科診療所の誘致

　　　　※一部事業は他地区での水平展開も想定

以　上